

入門期DAYSを実施しました

4/23(火)と4/24(水)の2日間にわたって、第1学年を対象に「令和6年度入門期DAYS」を実施しました。あいにくの雨となってしまいましたが、玉川大学と武蔵大学の先生方・学生のご協力のもと、社会が直面している課題を探究する活動を通して、問いを立て探究する生徒の姿が沢山見られました。



○1日目 玉川大学との連携

本校の視聴覚室で、玉川大学農学部環境農学科の南佳典教授に「“Think Globally、Act Locally”の実現に向けて何ができるか」をテーマにした講義をしていただきました。「ホッキョクグマの数の減少」「ダム建設に伴う環境変化」「プランテーション農業の影響」などの世界中の様々な環境問題について学ぶ中で、生徒たちはメモを取ったり近くの生徒と話し合ったりする様子が見られました。

講義終了後、各教室では玉川大学の学生のご協力のもと、環境問題に関する問いを立て、その問いに対する考え方を深めるグループディスカッションを行いました。また、環境問題や話し合いで深めた問いを模造紙にまとめ、グループごとに発表しました。



○2日目 武蔵大学との連携

武蔵大学へ実際に足を運び、3つの教室に分かれて次のようなテーマで講義を受けました。

「その問題、〈経済学〉で解決できます」 国際教養学部経済経営学専攻 古瀬公博教授
「社会的課題の解決に企業は貢献できるのか？」 経済学部経営学科 鈴木正明教授
「環境問題に立ち向かうための経済学」 経済学部経済学科 田中健太教授



講義終了後は1日目と同様にグループディスカッションを行い、様々な社会課題に対する経済的な解決策について議論しました。1日目の内容と重なる部分もあり、生徒たちはより具体的な課題や解決策に迫る様子が見られました。

グループディスカッションを終えて、武蔵大学の学生の案内でキャンパスツアーを行いました。大学生活や大学に入学するまでの受験生活について、学生に積極的に質問する生徒が多くいました。



○生徒が入門期DAYSで得た学びや感想

- ・入門期DAYSを通して、課題を「探究」するためには、原因などを細かく細かく分割して考えていくことが大切だと感じました。
- ・どの問題に対しても1つが解決すれば良い話ではなく、すべて根本で繋がっていると考える。そのため、1つを解決するのではなくすべてを解決していかなければならない。
- ・とある問題と直面したときに、「誰も損することがない」ということと同時に、「実現的であるか」というのを考えることがとても難しかった。
- ・グループディスカッションで、インターネットに頼らず、さまよいながらも答えを見つけていくのが楽しかった。
- ・2日間の探究活動を通して、今世界で起こっている問題は決して他人事ではなく、自分がその問題の原因を生み出していることもあり、その問題によって自分が害を受けることもあると考えた。また、問題同士が複雑にからみあい、一方の立場から考えて解決に持っていくのは難しい問題があることを知った。自分のためだけではなく常に周囲の状況に目を向けながら行動していきたい。
- ・大学の教授、学生の方々と交流することで、自分の将来や進路について、改めて考えることができ、良かった。答えのない問いやすぐには解決出来ない課題を探究し、グループディスカッションなどで意見を出し合い、有意義な2日間とすることができた。
- ・今の生活でとても幸せに暮らしているが、その幸せの裏には様々な苦労や努力、そして問題が詰まっているのだと感じた。私が生きている間に全てを解決させるのは無理だと思う。それでも、一つ一つ世界のみんなが幸せになれるような状況を作りたい。何代にもわたって、たくさんの問題が解決されるよう、今の私達もできることから協力していきたいと思った。
- ・私はこれまで地球温暖化は自然環境の問題だと思っていたけれど、それだけではなく、経済なども深く関わっているということを知り、とても印象に残りました。話を聞くととても大きな問題に感じるけれど、意外と私たちの身近な問題でもあるため、1人1人が小さいことでも何か行動していくことが大切だと思いました。
- ・今までは自分達1人1人ができる対策を考えることが多かったけど、今回は視点を変えて「企業」ができることについて考えて話し合ってたし、企業となると身近ではないので考えるのが難しかった。しかし、いつもと違う視点から考えたことで社会的課題に対する意識が変化した。今までは正直、私1人が何か行動したところで変わらないから企業に任せればいいなどと思っていたけど、企業として何か行動を考えたときに、1人1人の力が必要になることを改めて感じた。